

あとがき

山中光茂君（松阪市長）はおもしろい男である。

山中君は、自ら「貧しい育ち」だと自己紹介してきた。だからといって、決して見窄みすぼらしくはない。もちろん、地位も収入もできた今、成金風でもない。いっどこであつても、普通の感じの良い青年である。

山中君の経歴はユニークである。「貧しい」と自覚がありながら、学生の保護者たちの収入平均値が高いと言われている慶應義塾大学に学んだ。そして、その間の学費と生活費を新宿・歌舞伎町でキャバクラのスカウトなどの水商売をして賄まかなったとのことである。歌舞伎町といえば、東京で最も猥雑で危険な盛り場である。

慶應で法律学を修めた際に、「改憲派」の私の憲法の講義に皆勤し優秀な成績を収めた。しかし、それでいて、改憲派・小林節の憲法学が「好きではなかったので」、わざわざ上智大学に潜り込んで護憲派の巨頭、樋口陽一先生（東大名誉教授・東北大名誉教授）の憲法学を学び、それが「好きだ」と私に向かつて言う。

その後、群馬大学医学部に学士入学し医師になった。さらに、松下政経塾に入塾し、

国境なき医師団に参加し、アフリカとアジアの紛争・貧困地域に赴いた。そこで、いやという程、政治の貧困を目撃した。

そして、帰国し、三重県議を経て松阪市長に転じ、現在二期目の折り返し点にある。

彼の特色は、その多方面の経験を反映して、心の広さと懐の深さにある。政治家の任務は、個人の力を超えた大きな権力を預かりそれを行使して、国民（住民）総体の最大幸福を増進することにある。そういう意味で、政治家個人の人格は実に決定的に重要である。

その点で、私は、山中君が政治家であることは、今、松阪市民にとって幸運なことであると思う。

山中君の目線は、ヴェテラン政治家にありがちな、驕った、上から目線でも、また、大衆政治家にありがちな、大衆に阿おもんるものでもない。彼はあくまでも優しい。だから、彼の回りには人垣が絶えない。

今回は、この優しい山中君が本気で怒っている。彼は、権力者こそが遵守すべき憲法ないがしを蔑ろにしている安倍総理に対して本気で怒っている。

地理的にはちょうど日本のど真ん中のような伊勢神宮のお膝元の松阪で、山中君が、「ピース・ウイング」という安倍政権批判の狼煙のろしを上げた。目指すは、海外派兵解禁の阻止、平和国家日本という新しい伝統の維持である。

私は憲法九条改正論者ではあるが、だからといって、安倍総理が行っているような、憲法が定めた改正手続きも踏まない憲法九条の無視（破壊）には決して与_よする者ではない。だから、山中君から憲法に従う政治（立憲政治）を守るための対談を提案されたので、応じることにした。

対談を終えた今、私は、山中君たちの「ピース・ウイング」の戦いを孤立させたり討ち死にさせてはならないと痛感している。だから、この一書が彼らの正義の戦いの一助になれば……と切に願っている。

二〇一四年九月二五日

小林 節